

第2回 三陸海域の水産業と海洋 研究集会

三陸気仙地域における海と漁業資源を考える

共催：一般社団法人水産海洋学会、(株)大船渡魚市場、気仙沼漁業協同組合、岩手県水産技術センター、宮城県水産技術総合センター、東北マリンサイエンス拠点形成事業

日時：2015年12月11日13:00~17:30 (エクスカージョン：12月12日6:00~8:00)

場所：大船渡魚市場多目的ホール (岩手県大船渡市大船渡町字永沢209)

コンピーナー：清水道彦・後藤友明 (岩手水技セ)・永島 宏 (気仙沼水試)・渡邊一仁 (気仙沼振興)

1. 挨拶： 和田時夫 (一般社団法人水産海洋学会長) 13:00~13:05
2. 趣旨説明：後藤友明 (岩手水技セ) 13:05~13:15
3. 基調講演：地域ごとの取り組み
座長：清水道彦 (岩手水技セ)
 - (1) 大船渡における HACCP 対応魚市場を中心とした新たな取り組みと水産拠点としての将来像
佐藤光男 (大船渡魚市場) 13:15~13:45
 - (2) 気仙沼市の復旧・復興の概要と魚市場整備の方向性について
小川一人 (気仙沼市) 13:45~14:15
4. 話題提供：気仙地域の水産業を支える海と資源の現状と将来展望
座長：渡邊一仁 (気仙沼振興)
 - (1) 三陸海域における海況の現状と今後の動向 伊藤進一 (東大大気海洋研) 14:25~14:45
 - (2) サケ資源： 2015年の漁況と近年の動向 佐々木系 (水研セ東北水研) 14:45~15:05
資源の現況と今後の展望 帰山雅秀 (北大国際) 15:05~15:25
 - (3) サンマ資源： 2015年の漁況と近年の動向 渡邊一功 (JAFIC) 15:25~15:45
資源の現況と今後の展望 中神正康 (水研セ東北水研) 15:45~16:05
 - (4) カツオ資源：近年における来遊動向と三陸漁場 二平 章 (JAFIC) 16:05~16:25
5. 総合討論
座長：後藤友明 (岩手水技セ)
 - (1) 気仙地域の水産業の行方 (総合討論に向けたアイデアとして)
復興からレジリアンスある漁業をめざして—気仙沼近海延縄船団の現状と未来
石村学志 (岩手大) 16:35~16:55
 - (2) 総合討論 16:55~17:30
6. エクスカージョン (希望者のみ) 大船渡魚市場視察 12月12日 (土) 6:00~ 8:00

開催趣旨

三陸地方は、リアス海岸という地形的な特徴を有することから、湾ごとに点在する漁村単位に特有の漁業が営まれてきた。大船渡市から気仙沼市に至る気仙地域は、その地形的特徴ゆえに2011年3月11日に発生した東日本大震災で甚大な津波の被害を受けた。震災以降、この地域では養殖業、定置網、さんま棒受網など地域水産業を牽引してきた漁業を中心として組織的な復旧・復興が進められてきた。本地域では、大船渡と気仙沼という二大魚市場の再建にあわせて、ここを核とする次世代型の新たな水産業が形成されつつある。本地域の水産業は、生産量では震災前に近い水準まで回復しているものの、震災に伴うサケ資源の減少や高水温などによるサンマ漁場形成の遅れ、慢性的なカツオの不漁など、新たな課題にも直面している。そこで、本シンポジウムでは、この地域の水産業を支えてきた二大水産都市で新たに行われている取り組みと、これを支える海洋環境、サケ、サンマ、カツオ資源の動向に関する最新知見の報告を通じて、新たな水産拠点としての気仙地域の将来像を考える。